

# 老健 ほっかいどう

一般社団法人北海道老人保健施設協議会



特集 03

義務化までもう待ったなし！

BCP運用のポイント

MS&ADインターリスク総研株式会社

田名邊雄氏



02 道老健Topics

06 ろうけん拝見  
岩見沢市「ゆあみーる」「北翔館」

08 支援相談員のリレーコラム Vol.5

INFORMATION

「第30回北海道老人保健施設大会」  
開催！

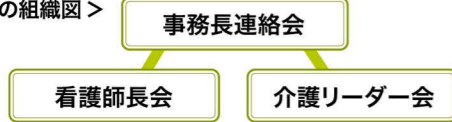
## Topics 1

### 道南地区老人保健施設事務長連絡会をご紹介します

#### 道南地区老人保健施設事務長連絡会について

情報共有を目的とし、1995年に設立した道南地区老人保健施設事務長連絡会。道南エリアの15施設が加盟し、さまざまな活動を行っています。

<同会の組織図>



会長 幸地 長仁さん  
(介護老人保健施設 ジョイウェルス栂 事務長)



会員  
エリア



#### 主な活動

##### ①事務長連絡会

2カ月に一度、介護報酬関連や人材確保のほかさまざまな議題を持ち寄り情報交換を行っています。

##### ②職員研修会

介護リーダー会を中心に、年に一度開催。「排せつ」や「歩行介助」「食事」などのテーマを設け、専門家による講演とグループワークなどを行っています。今年度は、2023年10月7日(土)に開催予定。



何度も会議を重ねて開催する職員研修会



大きなホールを借りて開催する研修大会

##### ③研究大会

1999年3月に第1回研究大会を開催して以来、毎年開催している大会(コロナ禍では休止)。カテゴリごとに20演題ほど発表、200人以上が参加する大規模な内容となっています。今年度は、2024年2月24日(土)に開催予定。

##### ④看護師長会

各施設の看護師長が集い、ケアの悩みや最新情報などにまつわる情報交換を行っています。

##### ⑤多職種意見交換会

各施設の管理栄養士や支援相談員、ケアマネジャー、セラピストごとに、年に2回情報交換を行っています。

#### ネットワーク継続のポイント

当会に参加することで、老健以外との関わりがつけられる点が大いだと思います。たとえば、私は函館市の医療介護の協議会や認定審査会の役員でもあるのですが、そこで得た行政の情報を会員に提供したり、逆に会員施設の状況や要望を発信する機会にもしています。ライブではありながらも情報を出し惜しみせず、これからも切磋琢磨していきたいですね。

## Topics 2

### 2023年度も道老健研修会が盛りだくさん

皆さまのご参加を  
お待ちしております!

#### 1 スキルアップ研修

- 2023年9月9日(土) 13:00~17:00
- オンライン研修「動き出しは本人から」~実技編~
- 講師:大堀具視 氏(日本医療大学保健医療学部 リハビリテーション学科 教授)

#### 2 ステップアップ研修

- 2023年10月28日(土) 時間調整中 ●場所:北農健保会館
- 集合またはオンライン研修「老健施設で働くためのメンタルヘルスケア」
- 公認心理士 中村 亨氏(札幌CBT&EAPセンター)

#### 3 看護・リハ職交流研修(企画調整中)

- 未定(2024年1~2月頃)
- オンライン開催

#### 4 第30回北海道老人保健施設大会

- 2023年10月14日(土)
- 詳細は裏表紙を参照ください。



## 特集

義務化までもう待たなし!

# BCP運用のポイント

2024年4月までに、BCP(事業継続計画)策定が義務化されます。あらためて基本的事項をおさえるとともに、運用のポイントについてMS&ADインターリスク総研株式会社の田名邊 雄さんに聞きました。

### まずは基本をおさえよう! 基礎知識編

#### BCP策定の基本

##### BCP(Business Continuity Plan:業務継続計画)とは

大地震等の自然災害、感染症のまん延、テロ等の事件、大事故、サプライチェーン(供給網)の途絶、突発的な経営環境の変化など不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い時間で復旧させるための方針、体制、手順等を示した計画のこと。

出典:厚生労働省老健局「介護施設・事業所における新型コロナウイルス感染症発生時の業務継続ガイドライン」



▲厚生労働省のガイドラインはこちら

ポイントをお教えします!

たなべ ゆう  
田名邊 雄氏

MS&ADインターリスク総研株式会社  
リスクマネジメント第四部 医療福祉MG

22年・23年と2カ年にわたって全老健会員向けにBCP支援セミナーを開催。講師として全国をまわっている。

#### BCPにおける考え方の違い

項目	自然災害	新型コロナウイルス感染症
事業継続方針	●できる限り事業の継続・早期復旧を図る ●サービス形態を変更して事業を継続	●感染リスク、社会的責任、経営面を勘案し事業継続のレベルを決める→正確な情報を基に的確に判断する
被害の対象	●主として、施設・設備等、社会インフラへの被害が大きい	●主として、人への健康被害が大きい→業務継続は、主にヒトのやりくりの問題
地理的な影響範囲	●被害が地域的・局所的	●被害が国内全域、全世界的となる
被害の期間	●過去事例等からある程度の影響想定が可能	●長期化すると考えられるが、不確実性が高く影響予測が困難
被害発生と被害制御	●地震の場合は兆候がなく突発する ●被害量は事後の制御不可能	●海外で発生した場合、国内発生までの間、準備が可能 ●被害量は感染防止策により左右される→感染防止策が重要
事業への影響	●事業を復旧すれば業績回復が期待できる	●集客施設等では長期間利用者が減少し、業績悪化が懸念される

出典:「介護施設・事業所における業務継続計画(BCP)作成支援に関する研修」資料

#### 「策定」のポイント

これらガイドランやひな型を基本に、以下も考慮しながら自施設のBCPを策定しましょう。

- 1 職員一人ひとりが自分事として捉えることができるよう、担当者は複数人設定し、組織的に策定する。
- 2 事前準備と事後対応の二つに分けて考える。
- 3 自然災害も感染症も、まずは資源を守ることを念頭に考える。
- 4 万が一資源を守り切れなかった場合も想定し、その場合の代替案および優先事項を検討する。

# 実践の心得

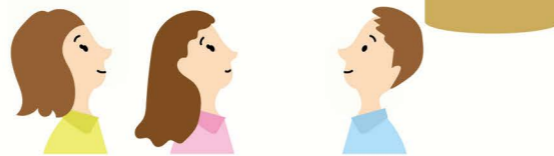
## 訓練と研修

BCP策定とともに義務付けられているのが、それぞれ年2回以上の研修および訓練の実施です。災害や感染症が発生した場合に迅速に行動できるよう、BCPに基づき①施設内の役割分担の確認、②感染症や災害が発生した場合に実践するケアの演習等、を目的に実施する必要があります。訓練は新たな課題を洗い出す意味においても非常に大切です。課題を見つけたら対策を考えてBCPに盛り込み、ブラッシュアップを繰り返します。これを継続することで、適切で実効性のあるBCPに育てていくことができます。



### 「研修」のポイント

- 1 作った人だけわかるものではなく、パート職員を含め全員が理解できる内容に。
- 2 初回は、BCPの概念や目的など基本事項にとどめ、2回目以降から自然災害と感染症に分けて説明するのがベター。一度にすべて情報を詰め込むのではなく、情報量を制限しながら少しずつ理解を広める。
- 3 一方的な説明ではなく、グループワークやクイズを盛り込むほか、イーラーニングなどを用いて学習の進捗状況を確認すると効果的。
- 4 毎回、新しい要素を取り入れるなど形骸化させず、継続することが重要。



### 「訓練」のポイント

- 1 災害対策本部のメンバーなどを中心に実施。加えて、部分的にでも、全職員が関わられるようなパートをもうける。
- 2 非常時に、個々人が考えて動くことができるような訓練内容にする。
- 3 地域との連携については、自治会や自主防災会組織などを足がかりに協力体制を構築。ただし、まずは施設内での訓練が問題なく行えるようになってから。
- 4 行政で開催するBCPセミナーに参加するなど、随時、訓練のアイデアを取り入れる。



# 実践 グループワーク

図上訓練におけるグループワークの一例

## シーン1 自然災害編

あなたは、「ろうけんエソ」の管理者です。下記ワークについて検討してください。  
“地震発生5分後の施設にて、初動対応内容を検討しましょう”

- 日時** 5月17日(水) 13:00
- 震度** 最大震度7(複数の市区町村)  
施設が所在する市区町村の震度/6弱  
※この地震による津波の心配はありません
- ライフライン** 電力/停電  
上水道/断水  
下水道/使用不可  
都市ガス/供給停止  
電話/キャリアによる通信制限により非常につながりにくい状態



**検討事項** 揺れが収まってから初動対応としてどのような対応をすべきか項目を洗い出して下さい。

### 解説

BCPに記載する災害対策本部要員の一例です。自施設のBCPに記載の役割に沿って対応事項を洗い出してください。

具体的な項目例	管轄	主な対応事項
●被害全体、重大事項重傷、建物等の把握 ●外部状況の確認(交通、津波など)	施設長	施設内外の状況把握 帰宅/待機の指示 危険区域立入判断 近隣住民への対応
●施設長への状況報告/意見具申 ●安全なスペースの把握	備蓄施設担当	建物安全確認 トイレ対応 配給 宿泊場所の確保
●普段と異なる状況で落ち着かない利用者に必要な配慮や見守り体制を検討 ●電気/水道/ガスなどが利用できない状況下、臨機応変な対応の検討	サービス継続担当	優先業務への注力 利用者対応 インフラ制限下の対応

## シーン2 感染症編

あなたは、「ろうけんエソ」の管理者です。下記ワークについて検討してください。  
“利用者が新型コロナウイルスに感染した場合における各業務の具体的な継続方法をシミュレーションしましょう”

- 日時** 5月17日(水) 9:30
- 事例** ユニットAの利用者Yさん および複数の職員が体調不良を訴えており、症状からも新型コロナウイルス感染症の可能性が高いと考えられ、抗原検査を実施したところ、陽性と判明しました。

**検討事項** 下記について業務継続(実施)方法を検討してください。平時と異なる点を意識しながら、「どのように」という手順をできるだけ具体的に考えてください。

- ①関係者への連絡
- ②外部から受け入れた応援職員への対応

### グループワークの検討内容

- ①関係者への連絡**  
それぞれの連絡先に、どのような方法で、どのような内容を連絡しますか  
連絡をするタイミングや担当者は決まっていますか
- ②外部から受け入れた応援職員への対応**  
応援職員にはどのような業務を依頼しますか  
受入れに当たって伝えなければならないことは何がありますか

### 解説

#### 1 関係者への連絡

- 連絡先としては、施設・自法人内、保健所・指定権者、感染者の家族、感染者以外の家族等が挙げられますが、伝えるべき内容(伝えるべきでない内容)やタイミングは異なります。
- 伝える内容としては、感染者の個人情報、感染者の普段の状況・病状・経過、感染拡大リスクの範囲等が考えられます。
- 連絡先、連絡内容、タイミング等を、わかりやすい形でまとめておきましょう。

#### 2 外部から受け入れた応援職員への対応

- 応援職員の派遣元としては、同一法人内の他施設、地域の連携する施設、退職した職員、人材派遣会社等が考えられます。
- 派遣される職員の職種も考慮する必要があります。
- 上記を踏まえ、受入れ時にどのような業務を依頼するのか、業務実施に当たりどのような情報共有が必要かを事前に整理しておきましょう。

例

	依頼する業務	説明すべきこと
1	食事介助	●入所者ごとの介助方法 ●食事ケア時の感染防止対策
2	排泄介助	●排泄ケア時の感染防止対策 ●排泄物の処理方法
3	消毒・清掃作業	●物品の場所、管理方法 ●消毒・清掃方法、タイミング

出典:MS&ADインターリスク総研株式会社 全老健「BCP支援セミナー」資料より抜粋

## 変化に応じて更新し続けよう

東日本大震災や新型コロナウイルス感染症などを経験している方が多いため、案外、対応策は整理されている老健も多いのではないのでしょうか。BCPというとなんとなくとらえがちですが、これまでやってきたことを文章に起こせば、どの老健でも作成は出来るはず。

あとは適切な運用を目指し、変化に応じて更新をし続けることが大切です。

岩見沢エリアの  
老健に  
お邪魔しました！

# 3つけん拝見!

～岩見沢市～



## 医療法人萌佑会 介護老人保健施設 ゆあみーる

入所定員 128名 通所定員 60名 加算型

食べること・楽しむことを  
職員一丸となって支援



岩見沢市8条西19丁目8-1  
TEL 0126-20-2311



右から岩田事務長、中島さん、伊藤さん、森居さん、山下さん

## 医療法人北翔会 介護老人保健施設 北翔館

入所定員 150名 通所定員 65名 超強化型

新生老健を目指し  
さまざまな挑戦中!



岩見沢市10条西21丁目2  
TEL 0126-32-2177



左から、通所リハ所長の笹原正隆さん、相談科長の君野翔さん、大野さん、統括介護科長の中西広子さん、リハビリテーション科主任の後藤さつきさん

## 通所リハで摂食嚥下にアプローチ

今年の4月から、通所リハビリが通常規模型から大規模型へととなり、よりたくさんの利用者のリハビリニーズに応えている、ゆあみーる。月平均900人の利用者をカバーするため、セラピストは言語聴覚士、作業療法士、理学療法士の3職種そろって専任配置する充実の体制を整えています。空知管内においても数少ない言語聴覚士が常駐するリハビリ施設として重視しているのは、食べることへの支援。嚥下・言語の専門医である施設医とともに、食事量の低下や飲み込みに問題のある利用者を対象に評価を行い、バルーンカテーテルを

用いたリハビリや姿勢の調整などに力を入れています。嚥下運動と嚥下反射惹起の改善を図る複合低周波筋肉運動を働きかける「ニューロトリート」も導入し、積極的にアプローチしています。あわせて食そのものにもこだわり、メニューを選ぶ「レストラン食」を用意。「複数のメニューから利用者さんご自身でお好きなものを選ぶことができます。食事を目当てに来られている方も多いと思います」と通所リハビリ担当の中島美穂さん。



摂食嚥下の評価を行う職員

## 施設内外で満開の桜を満喫!

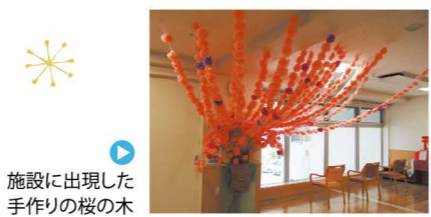
多彩なりハビリプログラムにも定評のある同施設。通所でも入所でも人気を集めるのが外出リハビリです。コンセプトは「普段外出できない利用者さんの誰もが、等しく楽しめる工夫を凝らすこと」。つい先日は、通所リハビリにおいてコロナ前まで恒例だった花見を再開し、盛り上がりを見せたそうですが、一方の入所リハビリでも施設内花見を開催。利用者が手作りした桜の花をつなぎあわせて1本の満開の桜の木をつくり、ノンアルコールビールで乾杯をしたそうです。

「芸達者の職員が楽器を弾いたり、コーヒーをふるまったりと本当のお花見以上に大盛況でした。利用者さんが笑顔になってもらえるよう、また色々企画したいですね」と看護介護課統括課長の森居順子さん。入所リハ

ビリ担当主任の伊藤加代さんも、「週3回の個別リハビリや短期集中リハビリなど、通常のリハビリ体制も整えながら、イベントも楽しめるものを考えたい」と話します。

多職種が和気あいあいと一つのことに取り組む風土が根付く同施設。離職率の低さはそのあらわれともいえます。働く環境改善にも力を入れており、今年は見守りシステムも試験的に運用しています。総務課課長の山下このみさんは、「ペーパーレスなど労力削減とコスト削減を両立したいですね」と言います。

最後、事務長の岩田憲昌さんは「類型アップはもちろんのこと、これからも地域包括ケアシステムを担う施設として、利用者さんの生活を支援していきます」と抱負を語ってくれました。



近隣の公園に花見に出かけ、満開の桜を眺める利用者

施設に出現した手作りの桜の木

## 短期・長期コースで在宅復帰を支援

北翔館では、2016年からリハビリ評価指標をもとにした独自の在宅復帰支援に取り組んでいます。評価指標のベースにしているのは、認知面とADL、基本動作にかかわる15項目について「している能力」と「できる能力」の評価をもって点数化を図る「バーセルインデックス(Barthel Index)」です。この結果をもとに、利用者本人とその家族、各専門職らによって会議を開き、在宅復帰までの道筋を短期あるいは長期コースに分けて具体的なリハビリを実践する仕組みを構築しました。「在宅復帰の施設だからリハビリに取り組もうといっても、明確なゴールがないと計画的には

進みづらい。特に当施設は150床と大規模のため、入退所コントロールも容易ではなかったこともあって取り入れることにしました」と副施設長の太野博之さん。

「している能力」は介護職員が、「できる能力」はセラピストが実施。運用は見事軌道に乗り、導入したその年には基本型から強化型へ、18年には超強化型へとステップアップを図ることができました。

太野さんは、「老健の使命である在宅復帰に携われることに、やりがいを見出す職員も生まれるなど、職員のモチベーションも高まっています」と手応えを話します。



南幌町にある老健「ゆう」と交流会を実施

## 自立支援促進委員会を発足

2022年4月から副施設長に就任した太野さんですが、現在は目下、さまざまな改革に着手しているところ。この4月に発足したのは、各職種の役職者を主要メンバーに据えた自立支援促進委員会です。自立支援介護のあり方を見直し、チームケアを向上さ



自立支援促進委員会の様子

せるため、毎月フロアごとにテーマに沿って意見交換を行っています。あわせて、他老健との交流機会も設け、見学会や情報交換にも力を入れています。

並行して通所リハビリの利用者満足度向上に向けたサービスの見直しやハード面のリニューアル、加えて一般職員を評価する側の役職者のさらなるレベルアップを目指し、役職者を対象とする人事評価の見直しにも取り組んでいます。

「古い慣習にとらわれず、中長期プランのもとでどんどん新しいことにチャレンジしていきたいと考えています。地域から選ばれ続ける施設でありたいですね」

事務連  
ならから  
質問です

多職種で色々な活動をされていますが、その際大切にしていることを教えてください。

各職種の専門性を尊重し合い、たくさん話し合いをする事。ともに良い物を作り上げていく意見交換。共通の思いは「利用者様の幸せ」です。

事務連  
さかいから  
質問です

人事評価において、評価者ごとで評価の仕方(考え方)にばらつきが出ないよう標準化を図るために取り組まれていることはありますか。

役職者人事評価規程内で「評価者の責務」について明示している事に加え、各評価者との年に数回の面談の中で「評価の標準化」に向けた指導をしています。

前回の黒瀬さんからの質問 経営側と現場側の間に立って最も苦労したことは？

## それぞれの目線に立つ大切さ

はじめまして、介護老人保健施設グラーネ北の沢の柴田です。相談員になる前はデイケア課で介護福祉士として日々、利用者のケアや機能改善に向けて支援させていただきました。相談員という仕事を始めてすぐは経営側と現場側の間に挟まれ、受け入れについて毎日葛藤することが多くありました。収益を上げようすれば現場は疲弊する、経営側と現場側の思い、それぞれの思いを繋げることが一番苦労しました。

ある時、体験利用者を案内していたのですが、現場から「大変だから受け入れはできない」と断られ、認識の差を痛感したことがありました。それからは「歩行時に見守る」「介助量が多い」等、現場が感じる「大変さ、がどのような事なのか理解することから始めたのです。現場の思いを汲み取りながら利用につなげることを意識するようになったことで、悩むことも少なくなりました。

支援相談員

柴田 儀貴

医療法人晴生会  
介護老人保健施設  
グラーネ北の沢



私は、どのような方にも長く在宅生活をしてほしいと思っています。様々な疾患を抱えながら生活をされ、ときには病状や身体機能、家族状況から自宅での生活を諦めてしまうこともあると思います。そんなとき、個人や家族間で抱え込まず、まずは相談してほしいとお伝えしています。求められていることにどれだけ答えられるかわかりませんが、寄り添い、共に一番良い方法を考えていける相談員になりたいと思っています。

NEXT

▶ 次回担当していただくのは、厚別老人保健施設ディグリュネンの小野寺孝徳さんです。

### INFORMATION

## 第30回 北海道老人保健施設大会

4年振りに集合形式の道老健大会が帰ってきます！

今回は、1日開催で内容を凝縮してお届け。

会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

日時 2023年10月14日(土)  
12:45~17:20

場所 ホテルエミシア札幌  
(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目5-25)

大会テーマ 老健介護の新時代  
～エビデンスに基づくAI介護の理解～

基調講演 LIFE(科学的介護情報システム)のこれまでとこれから  
～エビデンスに基づくAI介護の理解～  
講師/長嶺 由衣子 氏(厚生労働省老健局老人保健課)

特別講演 老健介護の新時代  
～リハビリテーションで生涯現役社会をつくる～  
講師/三好 貴之 氏  
(株式会社メディックプランニング 代表取締役・作業療法士)

演題発表 40題

演題登録締切 2023年8月14日(月)正午まで

演題抄録締切 2023年9月7日(木)正午まで

主催 一般社団法人 北海道老人保健施設協議会

参加、申し込みおよび登録はコチラから

参加登録締切 2023年8月25日(金)正午まで

第30回北海道老人保健施設大会事務局 介護老人保健施設 アートライフ恵庭  
TEL 0123-37-1511・FAX 0123-37-1516  
〒061-1356 恵庭市西島松567-1

登録事務局 担当:田畑  
TEL 090-5225-9425

